



令和6年度(2024年度) 学校評価(自己評価表)

領域	対象	評価項目 ※丸数字は重点目標との関連	評価の観点	成果と課題	評価			改善策
					A	B	C	
学習指導	②	授業の充実・改善	学び直しや習熟度別学習等の授業展開を工夫することにより基礎学力の定着を図り、キャリア教育を意識した授業実践に取り組むことができたか。	各教科の取り組みを経て、年に2回「基礎力診断テスト」を実施した。実施後は、ペネッセ担当者と進路係で検討会を実施し、それぞれの学年の指導の参考とした。基礎力診断テストの結果から学び直しの効果も確認できた。さらに面談等における対話を兼ね基礎学力の向上を継続していく。	○			「基礎力診断テスト」の結果をより細かく分析し、具体的な改善策を考え、授業に役立てていきたい。また、各学年や教科が連携してキャリア教育の推進を進めていくように努力したい。
			「授業の五か条」を定着させることができたか。	年度当初に「授業の五か条」を提示し、その重要性を再確認させた。また生徒会による「松高スマホルール3ヶ条」と振り返りアンケートを取っていくことで、授業の受け方について考えさせることができた。今後も、生徒会とも連携して生徒の意識を高め、学校全体で授業の質の向上について考えていく。	○			年度当初を始め、機会を見てルール確認は今後も継続したい。生徒会活動により授業の2分前着席や「松高スマホルール3ヶ条」、定期テスト前日の「断スマ」など生徒の意識が高くなりつつある一方、ルールを守れない生徒もいるという状況もある。来年度以降も学校全体で授業に関する指導の徹底を図るとともに、生徒の意識の向上に役立てていきたい。
			授業研修の機会をもてたか。	今年度は公開授業の開催ができ、教職員の授業研修の好機となった。初任研等を中心に、相互の授業を参観することにより、授業改善の機会として役立てることができた。	○			授業公開週間のみでなく、日頃から各教科内や教科の枠を超えて、授業を参観し合い、授業改善につながるよう研修を深めたい。また、ICT機器を有効活用により一層授業を充実させていく。
教育課程	③	教育課程及び個に応じたエリア選択の設定	エリア選択のガイダンス指導は適切にできたか。	1学年に向けエリア選択説明会および体験授業を実施した。各エリアの学習内容等をより具体的に説明し、各自の希望進路の実現に向けて、適切なエリア選択ができるよう指導することができた。	○			エリアの選択は、進路を左右する重要な決断であるので、進路指導と連携して全体の進路意識の高揚を図るとともに、個別指導を通して早めに進路の方向を決定し、保護者の同意も確認した上で、慎重にかつ的確に指導していく必要がある。
			エリア制の目標に即してカリキュラムの充実を図ることができたか。	学級減をふまえ、今年度入学生用の新エリアとの教育課程を編成し、生徒にも説明した。次年度2年生で実施していく中で、各々の進路実現を後押しできるカリキュラムであるか見極めていく必要がある。	○			進路希望調査等の分析や多方面からの情報収集を通して、生徒の進路の傾向を見極めながら、各エリアの学習内容についてさらなる充実を図り、適切なカリキュラムであるかを見極めていく。
進路指導	③	関係諸団体と緊密な連携を図ること 進路指導上必要と思われる情報の収集、管理、提供を的確に行うこと	関係諸団体との連携を図りつつ、進路指導上必要な情報収集、情報提供を行ることができたか。また適切な情報管理がなされたか。	産業視察・地域企業説明会等の行事に多数参加することができ、監督官庁・商工会等の関係諸団体との連携は十分になされたといえる。本年度においても関係諸団体と緊密な連携を取りつつ生徒・保護者に有益な情報提供を心がけることができた。また、進路指導に関する情報管理については、法令・通達等に基づき細心の注意を払い適切に行ってきました。	○			他校の進路指導担当との情報交換・連携も十分に行っていく必要がある。関係諸機関・諸団体にこれまで以上の協力を仰いでいく。特に参加型の産業教育行事は、生徒たちが職種選択・事業所選択を行うにあたって非常に有益であるので、可能な限り協力をお願いし、参加していきたい。
		大学・短期大学・専門学校の教育内容や公開授業、選抜方法等に関する情報を適切に提供することができたか。	各校の学校紹介・公開授業の企画・実施予定を希望者に示し、ガイダンスの有効活用を促した。大学・短大・専門学校の広報担当者より入試制度、新型コロナ感染防止対応等の必要情報を収集し、希望生徒・保護者に適宜的確に情報を提供することに努めた。	○			様々な状況下での進路情報の提供を適切に行っていく必要がある。進路指導関係の外郭団体にこれまで以上の協力をいただき、参加体制に工夫を凝らしていただき、オープンキャンパス等の学校説明会に参加させていきたい。大学・短大・専門学校との連携を強化し、出張説明会・出張授業等を実施することで生徒への的確な情報提供を行いたい。	
		生徒の自主的な進路選択が可能となるように必要かつ有意性のある情報提供を行い生徒一人ひとりに対する万全のサポート体制をつくりあげること	各事業所の求人情報を迅速に収集し、受験希望企業の決定に有意性のある情報を提供することができた。	○			円安・物価高騰等による各企業の成長を制動させかねない様々な要因を鑑みて、新卒求人件数の減少というリスクも想定をしつつ、指導内容の組み替えや再検討を行う必要もあると考えている。どのような状況下でも、臨機応変に展開することができるような体制づくりを心がけていきたい。そのためにも監督官庁、関係諸団体、各事業所の担当者との連携を一層強めていくことを大切にする。	
教育活動	③	生徒の進路希望状況を学年スタッフと共有し、進路実現のための協働的なサポート体制を構築すること	生徒の進路希望状況を学年スタッフと共有し、進路実現のための協働的なサポート体制を構築することができたか。	各学年の進路指導展開のためのステージ設定・指導メニューの作成及び実際的指導に関し、各学年の進路指導担当と進路指導室担当者が中心となり、盤石な指導体制をつくり上げ良好な成果を上げることができた。大学等の学校推薦型選抜入試推薦依頼件数の減少はなかったが、今後の減少も想定し、学校推薦型推薦入試に対する受験対策(面接・小論文等)をこれまで以上に強化していく必要があるといえる。また生徒に、受験生としての心構えを日々の学校生活のなかで十分啓発する必要がある。	○			不測の状況に応じた臨機応変かつ迅速果敢な対応を心がけなくてはならない。生徒たちが採用試験・入学試験を突破するのに何が必要で何を求めるかを状況の変化に合わせて把握し、各学年としっかりと連携し指導を展開したい。学校推薦型推薦入試を希望する生徒に対しての面接指導及び小論文指導に関し、該当教科と連携しつつさらに充実させていきたい。進路実現のための高校生としての基本マナーを、進路講話等で啓発し、生徒たちの意識を高める取り組みも強化していく。
			安全な学校生活の保障	いじめや問題行動に対して的確に対応できたか。	○			特に人間関係のトラブルにはSNSが関係することが多く、SNS上でのコミュニケーションを把握し、文章についても細かい指導を行っていきたい。また、盗難については貴重品の管理の徹底を引き続き呼びかけるとともに、行事では具体的な対策を考えていきたい。
生徒指導	①	基本的生活習慣の確立	挨拶・通学マナー・上下履きの区別・その時にふさわしい身だしなみの定着ができたか。	多くの生徒が良い挨拶をすることができている。通学マナーについては常々諸方面から指摘がある。身だしなみについては、生徒会と連携して呼びかけを行うことができた。	○			身だしなみについては、生徒会でも積極的に取り組んでいるので引き続き協力していく。通学マナーについても、生徒と共に考え協力していくことが改善に向けて大切だと思うので、身だしなみと同様に引き続き取り組んでいきたい。
			スマートフォンについて、ルールやマナー、使い方を生徒が主体的になってコントロールできるように指導できたか。	生徒自らが作るルールを生徒会が主体的になって実践してきたが、今年度も画像・動画アップでの指導やSNSでのトラブルがあった。生徒会が中心となってスマホの利用について継続して取り組んでいる。	○			SNS・スマホに関しての指導は年々難しさを強めているからこそ、生徒自らルールを作ることが大切だと考える。生徒に問題提起を行いながら、今後も生徒会と協力して考えていきたい。

領域 対象	評価項目 ※丸数字は重点目標との関連	評価の観点	成果と課題	評価			改善策
				A	B	C	
生徒会	①④ 生徒会活動やクラブ活動の活性化	生徒会の行事や活動を主体的に企画・運営させるとともに、全会員を意欲的に参加させることができたか。	6年目となった「松高スマホルール」だが、生徒会役員は主体的にルールと関わろうとする姿勢が見られる。全校生徒については自己評価することで、ルールの周知を図ることができた。ルールの意義を確認しつつ、授業のみならずSNSの使い方も現状の生徒の課題となる。	○	○	○	現在の松高生に合った「スマホルール」を継続的に考えていくために、「松高スマホルール」について全校生徒の意識向上のためにも定期的にルールができた経緯や意義を確認する場面を作っていく。また、スマホの使い方について生徒会役員が作成したマナーカイズを実施することで、使い方などの改善を目指していきたい。
		生徒会の活動方針やテーマを全会員に理解させ、それに則した活動を日常的に継続して展開させることができたか。	「百花繚乱」のテーマのもと、生徒たちが個性を尊重しながら先輩方が作り上げたものを根付かせるために活動ができた。全校ディスカッション、NEO班活動、松高祭などを通じ、全校生徒をさらに巻き込んで活動していくことが課題である。	○	○	○	テーマを生徒総会などで全校生徒に周知したり、校内掲示の工夫をしたりする。また、役員内でも再確認する場を作り、生徒会役員が積極的に全校生徒と関われるよう環境作りをしていく。
		クラブ活動に目標を持って自発的に取り組ませ、意欲的な参加の姿勢を養うことにより、活動を活性化することができたか。	各クラブによる練習試合の実施や大会出場ができる機会が前年より増えてきた。ただし部によっては加入する生徒が減少したことにより、活動自体を縮小したり次年度統廃合とせざるを得ない部も出てきている。	○	○	○	現在行っている部活の活動場所や活動時間を工夫し、柔軟に活動できる環境作りをしていく。また、部長会などを開催して部活動加入の呼びかけを学校全体で投げかけていきたい。
	④⑤ 生徒会活動、クラブ活動による自発的態度と実践力および自治能力の育成	生徒会活動など特別活動の指導を通じ、生徒の社会参加を図り、地域に貢献する取り組みを行わせることができたか。	町役場での花植えや松川町内の保育園に花を届ける活動ができた。今年度は松川北小学校の児童との交流だけでなく、上片桐保育園の園児とも交流をすることができた。生徒自身が地域に貢献する取り組みを考えられるようにすることが課題である。	○	○	○	生徒会が主体となり、松川町や地域住民と交流し、社会参加をする機会を設けていきたい。また、来年度は生徒の関係者のみだけでなく、公開範囲を広げることで文化祭を地域の方に見ていただく機会も作っていきたい。
		生徒会活動の指導およびクラブ活動の指導を通じて、生徒の自発的態度を養い自治能力を育成することができたか。	昨年度に引き続き、諸活動を生徒自身が主体的に計画し・実施し成果を感じ取ることで、自治的、自発的精神を養う指導を試みている。また、自分たちの課題を常に自覚させる活動を行った。学校の主役は生徒であり、自分たちが作っている場所であることをさらに意識させる取り組みをしたい。	○	○	○	自らの活動が何らかの目に見える成果として現れる工夫をすることによってより高い自覚を持てるよう全校参加の活動を計画する。生徒会役員のみならず、全校生徒が全員で作りあげる生徒会を目指していく。
教育相談	① 教育相談の充実 (不適応生徒への対応)	対応を必要とする生徒の状況の把握を行う体制が構築できたか。	生徒の状況把握については、週1回の係会やデータシートを活用し、日頃から職員間での情報交換を心がけ、学年会、職員会で共有することができた。引き続き保護者との連携を密にしていく。	○	○	○	対応を必要とする生徒の状況を多くの職員で見守り、より細やかな情報共有に努める。従来の口頭連絡や資料共有に加え、データシートの活用を工夫し、的確・有効な対応策を探る。
		関係者との連絡を密に取り、適切、迅速な対応ができたか。	教育支援の専門機関へつなぎ、アドバイスを受けることができた一方で、校内での個別対応については難しさもあった。生徒、保護者、担任と課題を共有し、よりよい方向に進むよう、さらなる理解と協力を得ていきたい。	○	○	○	迅速かつ正確な情報の把握と共有をするとともに、教育支援の専門機関との連携を密に行う。専門機関について、職員や保護者に周知を図り、相談しやすい環境をつくる。他の事例等も参考に具体的な支援策を策定する。
保健	① 生徒の心身の健康管理と増進、保健衛生の確立	健康診断による生徒の健康状態の把握と、その結果をふまえ早期治療に結びつけることができたか。	昨年に引き歯科健診の結果、歯肉炎の状態が見られた生徒に対して、保健指導を行い、歯肉の状態の改善を促すことができたものの、その他の健診に関しては、結果を保健指導に繋げることができなかった。	○	○	○	健診結果及び受診勧告を配布する際に、都度簡単な保健指導のプリントを配布するなど、健診結果をもとに自身の健康状態の改善に向けて具体的な行動に移せるよう支援していく。
		思春期特有の健康問題について生徒自身が気づき、対処できるような指導ができたか。	性教育に関しては、1学年では「子どもの性被害防止教育キャラバン隊」による学習会を実施、2学年はDVDを視聴しワークシートで学びを深めた。	○	○	○	3年生についても、保健講話の実施できるよう学年と相談していく。ゲーム依存、喫煙、アルコール等の問題についても、生徒が学ぶ機会を積極的に提供していく。
		日常の健康観察や欠席、保健室来室状況から支援の必要な生徒に対し適切な対応ができたか。	欠席や保健室来室の多い生徒には職員が話を聴きスクールカウンセラーや専門機関への相談、受診を勧めた。	○	○	○	欠席や保健室来室の多い生徒は、健康上の問題以外にも、学習面や家庭面で問題を抱えている生徒が多いため、学年会や係会等での情報共有を密に行い、生徒の抱える諸問題への早期発見及び早期対応に取り組んでいく。
教育活動	② 利用しやすい環境づくりと幅広い資料活用	利用しやすい環境づくりができたか。	自主学習、読書、友人との語らいなど、生徒それぞれの過ごし方ができている。	○	○	○	引き続き生徒の様々なニーズに合った支援を行いたい。
		自主的な探究心に応えられる資料を揃え、授業ほか幅広い利用支援を行えたか。	資料の更新で資料充実に努めた。授業支援については、「新書点検読書」など、生徒が日ごろ手に取らないタイプの本と出会うきっかけづくりを実践した。進路に合わせた進路コーナーの資料の見直しを行った。	○	○	○	整備されたICT機器の利用とともに図書資料の利用が並行して行えるような利用支援を考えたい。郷土の情報については、デジタル情報の収集を引き続き研究したい。
図書観聴覚	① 視聴覚教育の充実 ② 人権教育との連携	視聴覚機器の充実と有効活用ができたか。	全学年においてタブレット端末が整備され、授業や部活動の場で有効活用できた。また、放送室のCDプレーヤーを新しくし校内放送の充実を図ることができた。	○	○	○	情報機器を授業や行事でさらに効果的に利用できるよう、教員間で情報共有を行いたい。校内の放送機器について再度所在を確認し、老朽化した放送機器については修繕や設置を検討する。
		視聴覚教育・人権教育を通して、生徒の情操教育や学力向上に資することができたか。	合同芸術鑑賞会では音楽を鑑賞した。質の高い演目を鑑賞することができ、生徒にもおおむね高評価であった。	○	○	○	芸術鑑賞の基本的なマナーについても事前指導を徹底し、鑑賞日には芸術にふれる貴重な機会としていきたい。
①	情報機器の活用体制	情報機器の有効活用が学校全体でできたか。	校務や授業・生徒会活動で、電子黒板やタブレット端末有効活用が徐々に増えている。情報機器の中には不具合も出てきているので、機器の故障、不具合などに対応していく。	○	○	○	整備されている情報機器を授業や行事で効果的に利用できるように、教員間で情報共有と使用日程の調整を行う。今後、機器の故障、不具合などの対応を検討していく必要がある。

領域	対象	評価項目 ※丸数字は重点目標との関連	評価の観点	成果と課題	評価			改善策
					A	B	C	
学校情報管理	①	個人情報の保護	情報を扱う際のリスクについて理解し、適切な個人情報の取り扱いができたか。	今年度も情報セキュリティ研修を全職員が行つた。自分たち自身で情報資産の重要度を把握して、適切なセキュリティをかけられるようにさらなる周知徹底を行う必要がある。	○			個人情報等の情報資産管理について全職員へ周知徹底し、今後も研修を行っていく必要がある。パスワードをかけるなど、リスク回避の意識を高めるようにしていきたい。
		① 危機管理	防災・事故等に備えた危機管理体制の広報と定着ができたか。	今年度の防災訓練では、通常通りグランドへの避難ができた。生徒は落ち着いて非難を完了することができ、高森消防署の方からも、以前と比べ非常に良い評価をいただいた。また、消火訓練も行うことができ、防災についての意識が高まつたように感じるが、実際に大災害が起きた時このように避難できるかは、日頃の災害への高い意識を持つことが必要と感じる。	○			近年、日本中で地震・大雨・洪水・火事等、大きな災害が起きている現状を考えると、避難訓練だけでなく日頃から防災の意識を高めておく必要がある。また避難訓練時の放送については緊急放送と校内放送を併用していく必要がある。予期せぬ災害に備えて、特別な訓練を行うことも検討していきたい。
教育活動	④ ⑤	清掃美化の徹底	生徒自ら、自発的に環境美化活動に取り組む姿勢を養い、校内美化の徹底を図ることができたか。	校内において「全校床磨き」や「HR教室のワックスがけ」といった美化活動を美化委員が中心となり行つた。活動時には全校生徒、職員の協力が得られてはいるものの、全校の美化意識はまだまだ課題があると考えられる。また、ロッカー上の整理はクラス・学年によって差が見られる。	○			清掃活動の充実のために清掃用具の管理・補充を随時確認するとともに、私物の片付けや清掃への呼びかけを通して校内の美化意識を向上させていく。
			地域における学校の果たす役割として、駅周辺と通学路の環境美化に努力できたか。また、ごみの減量化、ごみの分別等ができたか。	野球部の自主的な協力により、通学路上の環境美化を行っている。ごみの分別に関しては美化係がごみステーションでの分別活動を行っている。全校生徒の分別への意識は低くはないので継続的な声掛けにより分別の意識をさらに高める必要性を感じる。	○			ゴミや資源の分別への意識の向上が求められることから、呼びかけなどを通して分別の意識を全校生徒が持てるよう活動を行う。また、生徒会美化委員が中心となり校内だけでの清掃活動を行うことで学校周辺の環境美化と生徒間の美化意識の定着を図っていく。
人権平和教育	① ④	個人を尊重し、いじめのない学校づくりを進める	いじめを容認しない、早期発見ができる人権感覚の育成を生徒の日常生活の実態に即してクラス・学年・学校全体を通じて重層的に行なうことができたか。	年間行事予定にそって「人権学習」「憲法学習」「平和学習」を実施できた。普段の授業や学年段階の学習でも差別を容認しない、人権意識を高めるための取り組みがワークシート、映画等様々な手段を用いて実践することができた。	○			全職員があらゆる機会を捉えて差別やいじめなどを許さない気運を醸成していく必要がある。係・学年・教科・部活動顧問で連携し、気になることは日常的に話題にし、いじめの予防・早期発見を心がけていく。いじめは決して許されないという姿勢を常に生徒に示し、予防的人権学習をおこない、啓発に務めていく。
			人権平和教育を教科と教科外の各領域において関連をもたせ、実施することができたか。	地歴公民科や家庭科で人権に関する学習を深めた。また、平和の尊さを意識させる上で重要な取り組みができた。	○			次年度以降も教科と教科外の各領域において人権や平和を考える機会を設け、生徒の意識啓発に努めていきたい。地球規模の紛争や戦争を理解するための研修を積むために、日頃の人権意識の向上と教科の理解の両方が不可欠である。
開かれた学校づくりと地域	⑤	保護者との連携	保護者との意思疎通を図り、協力関係・信頼関係を築くことができたか。	環境整備事業は計画どおり実施できた。多くの保護者、生徒、職員が参加してくれた。松高祭のたこ焼き配布・警備、綱引き大会(雨天のため強歩大会は中止)への協力ができた。	○			環境整備事業、松高祭・強歩大会への協力活動により多くの保護者が参加されるように呼びかけを行いたい。
			PTA諸会合・行事・学年学級PTA等のPTA諸活動を充実させることができたか。	環境整備事業、松高祭のたこ焼き配布・警備、綱引き大会でのパンや飲み物配布への協力が実施することができた。	○			一斉メールやホームページなどにより、各行事の様子や楽しさが伝わるよう配信するとともに、家庭通知が必ず届くよう保護者のネットワークを駆使するなどして、各行事への参加者をさらに増やし、PTA活動を盛り上げていきたい。
			保護者との連携を、生徒指導に生かすことができたか。	共働きの家庭が多く、常にPTA活動に協力していただくのは難しい状況ではあるが、PTA活動をしている保護者の姿から感謝の気持ちを「ありがとう」の言葉で表現する生徒の様子が見られた。	○			「開かれた学校作り」「保護者・教職員がともに生徒を育てる」視点は常に持ち続ける必要がある。これからも保護者に積極的に学校へ足を運んでいただき、生徒の状況を共有しながら生徒の成長を支えていきたい。
学校運営	⑤	地域との連携	環境整備事業、授業や生徒会活動・クラブ活動等での社会人講師の活用、地域の要請に応える講師の派遣、授業公開、文化祭一般公開などを通して、学校が地域に信頼される存在となり得たか。	社会や総合的な探究の時間に、地域の方に来ていただき、クラス・学年・小グループ(講座)毎に話を聞いたり、自分たちの考えたことを校内で実践してみたりした。その際様々なアドバイスをいただいた。聞いたことや活動したことをお互いに振り返り、今後の活動につなげていくことが課題である。	○			生徒会やクラブでの活動にとどまらず、生徒の自主的、自発的な活動をさらに促すとともに、その活動の受け皿となる地元自治体や企業との連携を関係大学との連携を含め深めていきたい。これらの活動を通して、地域の要請に応える学校の人的資産の派遣などについても研究を進めて行きたい。
		学校情報の積極的な発信	中学校に対して本校の教育方針や取り組みについて積極的にアピールすることができたか。	地区の中学生全員に進路情報(フルーツバスケット)を配布、近隣地域への配布等、積極的に情報の発信をした。	○			中学校の生徒・保護者・職員に対して積極的に情報を発信する。
			学校ホームページのコンテンツの充実と情報公開を図ることができたか。	「フルーツバスケットミニ」を発行し、行事をはじめとした学校生活の様子を発信することができた。今後はその周知をより一層図るとともに、HP上でもより松川高校がわかるような情報発信をしていきたい。	○			ホームページに最新の情報を公開できるように努める。部活動の結果や学校生活の様子などを集め、HPにアップしていく。また、ホームページのリニューアルも検討する。
		生徒・保護者・住民の学校参加	学校評議員会の充実を図り、生徒・保護者・地域住民との交流が深められたか。	「匿名性を担保した学校評価」アンケートを、生徒・保護者・学校評議員に依頼し、多くの貴重な意見をいただくことができた。その結果を話題にし、学校評議員会では有意義な意見交換ができた。今後に生かせるようしたい。	○			引き続きアンケートを実施し、ご意見をいただくとともに、懇談会や様々な学校行事等で多くの方に学校に来ていただき、交流する機会を増やしたい。